

受血者が見える広報の取り組み

輸血を受けた患者さんの感謝の気持ちや、献血された血液がどのように患者さんに使われているかを表現し、より多くの献血者等に献血された血液の使われ方を理解していただくことを目的とし、下記のとおり広報資材を作製し、各血液センターにおける啓発事業において広報活動を展開している。

1 映像

(1) 「人は人の力になれる」

内 容 急性リンパ性白血病と診断された女の子（5歳）がお母さんと共に闘病生活を乗り越え、命を支える献血の大切さを伝えるドキュメント。

放映時間 12分

製作年度 平成20年度

製作本数 1,000本

(2) 「ゆきみ」

内 容 3歳の愛する娘に小児がん再発し、父が娘の闘病を通じて感じたことを、自らの経験を基に血液の尊さや人との温かい繋がりを伝えるドラマ。

放映時間 27分

製作年度 平成21年度

製作本数 7,500枚

※ ライオンズクラブ各複合地区ガバナー協議会事務（8箇所）及び各地区キャビネット事務局（35箇所）あて送付。

(3) 「八月の三重奏」

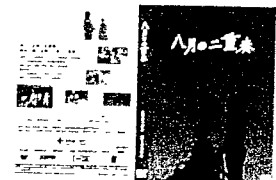
内 容 妹を急性白血病で亡くされた姉。自身も骨髄提供を行うなど家族の5年間にわたる闘病の記録。妹を亡くした後、献血ボランティア組織を立ち上げ、献血のボランティアに励む姉の物語の映画。

放映時間 45分

製作年度 平成22年度

製作本数 10,000枚

※ 劇場における完成試写会の開催及び全国レンタルビデオ店での無料貸出しを予定。



2 個人向け小冊子（献血 Walker）への記事掲載

平成20年度より年2回発行（毎年250万部）している、献血 Walker に「ライフレシビエント」記事として、これまで輸血を受けた患者さん9名の声を掲載していること。